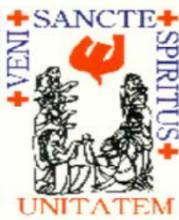


2015年3月8日 (第165号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



# カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
今なぜ神様はわたしたちが悪を行うことを妨げられないのでしょうか?
神さまは人間をロボットとしてではなく、彼の似姿、つまり自由な人間としてお創りになったからです。

## 諏訪司教 今年度司牧書簡を公表

諏訪司教は四旬節を迎えて「2015年度高松教区司牧書簡」を公表、二つの大きな教区のテーマを信徒に提示した。これまでの教区の歩みを振り返り、今年度のテーマへの取り組みの理由や課題を述べ、教区の再生と一致への信徒へ更なる成長を促すこと共に前進しようと呼びかけた。その要旨を紹介する。

書簡は今年の高松教区のテーマ「信徒の奉仕職として病者・高齢者の訪問」「違いが豊かさになる信仰共同体」の二つの柱を公表した。このテーマの実践の中で「キリストに招かれた私たちが多くの人々の幸せに奉仕し「交わりの教会」として福音の喜びを見出し共に歩んでいきたい」と述べる。

そして教区の歩みを振り返る。教区の再生と一致への道は2009年「どんな教会になりたいのですか」

の問いかけで始まった。それは福音宣教推進全国会議で出された、教会であるための三つの要素に従うことを選択。「信仰・生活の中の霊性」「共同体・神の民として生きる」「現実社会・奉仕する社会」の三つをバランスよく生きることが不可欠であることが確認された。

### 教区テーマ

## 「信徒の奉仕 病者・高齢者の訪問」「違いが豊かさになる信仰共同体」

「神のこぼれ分ち合い」を積み重ね、御ことばの豊かさに触れ、気づき、日常生活が支えられる体験を味わった。2014年は信徒の奉仕職として集会司祭司牧者の養成が呼びかけられた。司祭不在のときでも「主日のミサ」がかけがえ

のない大切な典礼とされるため、すでに司式奉仕をする信徒リーダー養成が実施されている。
どんな奉仕ができるか
小教区毎に検討して
今年提示された二つの目的のテーマ「奉仕職としての病者・高齢者の訪問」は現在の少子高齢化時代に対応。病者の訪問に力を入れている。
「違いが豊かさになる信仰共同体」は現在の外国人信徒は約2500人と推定され、多くの教会が「病者・高齢者の訪問」の奉仕職として実施することは「時のしるし」だと考えられる。それはキリストの道に助け合う人は少なく、家族や地域もそれを担う力が低下している。書簡は「病者・高齢者の訪問」の奉仕職として集会司祭司牧者の養成が呼びかけられた。司祭不在のときでも「主日のミサ」がかけがえ

め合い、より豊かな「交わり」の教会へと成長する姿を模索してまいります」と述べ、しかし様々な問題や課題が浮き彫りになっている。
多くの問題や課題に
忍耐強い取り組みを
さらに書簡は「違いが教会的な豊かさにつながるには何が必要でしょうか。豊かさは相手を尊重し受け入れていく姿勢があり「愛とゆるし」を伴う必要がある。そしてこの変化は時間をかけながら忍耐強く取り組む課題が多々あります」と述べている。在日外国籍信徒については教区報9月号、12月号でも取り上げている。

「地は混沌であった、闇が深淵の面にあり」の状況だ。
神のみ言葉「光あれ」
書簡は続く。「御ことばは力強く響く「神は言われた。光あれ」と。神の思いがこもった創造の喜びと愛を生み出す「光」を受け入れる新しい生き方、人間の思いを超えた新しい生き方が必要なのです。教会は「御ことば」を預かり「光」を照らす使命を担っており、教会共同体の存在の意義がここにあり、と結論づける。そして「主の豊かな祝福と聖霊の導きによって高松教区がより確かなものへと成長できるよう心から祈りいたします」と締めくくった。

## 「あなたの口に私の言葉を授ける」

# 宋新司祭 喜びの叙階式



諏訪司教から授けられる新司祭

6年前に韓国から来日、司祭への道を歩んできたヤコブ・ソン・ヒョンクン助祭が2月11日、カトリック高松教区で叙階された。叙階式には四国4県と韓国から金大司教、司祭、信徒ら約400人が出席、国境を超えて共に神の恵みに感謝、大きな喜びの日となった。

祝いの言葉。続いて日韓の青年たちが「君は愛されるために生まれた」の歌を心を一つにし四国語で歌った。最後に花束贈呈があり、宋司祭は両親と親族、出席司祭たち、日本で働く韓国司祭たち、神学院の同窓生らの紹介の後、信徒らに感謝の言葉を述べた。会場の聖堂には終始信徒らの祈りと神への感謝の想いが満ち、温かな雰囲気溢れた中で叙階式を終えた。

## 日韓の信徒集い 神の恵みに感謝

「連願」に続く叙階者への授手の後、大司教、司教、司祭らによる「授手と叙階の祈り」「ストラとカプアの着衣」「パテナとカリスの授与」が行われ、荘厳な雰囲気の中で新司祭が誕生した。諏訪司教から「新しい司祭を兄弟として迎えてください」との歓迎の言葉に出席者全員から新司祭誕生を喜びました。



左端 金喜中 広州教区大司教

「授手と叙階の祈り」「ストラとカプアの着衣」「パテナとカリスの授与」が行われ、荘厳な雰囲気の中で新司祭が誕生した。諏訪司教から「新しい司祭を兄弟として迎えてください」との歓迎の言葉に出席者全員から新司祭誕生を喜びました。

「授手と叙階の祈り」「ストラとカプアの着衣」「パテナとカリスの授与」が行われ、荘厳な雰囲気の中で新司祭が誕生した。諏訪司教から「新しい司祭を兄弟として迎えてください」との歓迎の言葉に出席者全員から新司祭誕生を喜びました。

### はばたき

2015年がスタートして早くも二ヶ月余が経過しました。「今年こそは〇〇を！」と宣言した目標の頭出し程度は済ませておきたところですね▼カトリックでは、復活祭の四十六日前、すなわち四旬節第一主日直前の水曜日を「灰の日」と定め、回心そして、神の僕(しもべ)の証として額に灰で十字架の印を付けます▼黒をたっぷりさせたくないときに、その中間色である灰色を使って表現するため、灰色には曖昧で中途半端なイメージがつきまといまふ。しかし、極端を嫌い、婉曲表現を多用する傾向のある日本人にとっては、それがゆえに不可欠な色とも言えます▼山形と新潟の県境地区では、焼き畑による灰を活用した蕪の生産に加え、灰汁を使ったしな織・笹巻き・枳餅など、独特の灰の文化が残っており、灰は貴重な資源です▼たとえ他人に自分の目標を明確に知られたくなくとも、真に実現したい強い意思があるのなら、せめて自らの心の中からは極力、灰色を取り除きたいものです▼灰で額に十字架を印すキリスト者の一人として、あなたは今年、どんな目標を心の中に設けましたか。各家庭に持ち帰ったシユロの葉を来年、教会へ持ち寄る際に、目標達成度を静かに顧みるためにも、目標を明確化することをおススメします。



聖香油の塗油

# 「多くの人に支えられた」 みんなに心から感謝

## 喜びのソン・ヒョングン新司祭



式後ご両親と共に



金大司教、溝部・諏訪司教らと



司祭らとよろこびを分かち合う

高松教区の皆さん、こんにちは。ヨコフソン・ヒョングン新司祭です。皆さんの応援とお祈りのおかげで2015年2月11日に桜町司教座聖堂で司祭に叙階されました。心から感謝申し上げます。

司祭叙階されたから感謝したことはすべてが感謝でした。今まで自分のために祈ってくださった高松教区の皆さん、一緒に同じ道を歩んでいる先輩神父様たちや同僚神学生たち、そして、韓国で自分を育ててくれた叙階まで来てくれた韓国の信者さんたち、司祭は自分の努力や力だけなるものではなくて多くの人々から支えられて行けるものであることをよく感じました。今までは自分の司祭叙階式というイメージが強かったです。高松教区の司祭叙階

振り返って見ると2009年8月11日に初めて高松教区に来て、あつという間に5年半が過ぎてしまったような気がします。その間たんのさんの方から支えられ司祭として歩むことができました。高松教区の司祭様を初め神父様と信者の皆さんに心から感謝申し上げます。



今から高松教区で奉仕する道を開いていきたいです。高松教区の皆さんと共に支え合いながら一緒に生活し、祈りながら歩んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

ソン・ヒョングン



叙階の儀への呼び出しを受ける



ご両親を祝福



金大司教の按手



式後、共同司式者全員と

## 戦後70年 戦災の記録伝え続ける

今治教会 新居田 大作さん (80歳)



戦災体験記録集を持つ新居田さん

『人の命が大切にされ、平和の尊さをみんなが知るようになればいいと思います』。今治教会の新居田大作さんは今治市の戦災を記録し、伝える活動を続けて十年になる。今治市は3回空襲を受け、県内でも最大の被害を受けながら戦災記録が残っていないことがわかり、市の文化交流会会長だった新居田さんは平成17年『戦災体験を語るシンポ』を開催、『戦災を記録する会』を発足させた。戦災体験記録集『あなたに伝えたい』を次々と第3集まで発

刊。亡くなった戦災被災者の調査も続け、やっと575人の氏名もつきとめた。依頼されて大学や小学校などでも学生や子供たちに戦災体験を話す。そこでは『今は何でもいつでも手に入る豊かで自由な時代だけど、これが当たり前ではないんだよ』と話す。先人たちの苦しい悲しい体験や苦労や努力があって今の平和で豊かな社会があるんだということを伝える。今年は戦後70年。4冊目の体験記録集も計画、戦災の碑の前で8月に行う『追悼、献花と平和の鐘を鳴らす式典』も少し充実させたいと思っている。ほかに今治市出身で無教会主義のキリスト者・矢内原忠雄の顕彰活動にもとりかかっている。『これからも忙しくなりそう』と新居田さんは温顔をほころばせた。

道後教会 丸尾 修

ちょっとひとひき  
詩 復活祭  
マグダラのマリアが  
ひざまずいて  
墓をのぞきながら  
泣いている背後から  
肩を叩くものがあり  
振り向くと  
偉大な喜びに満たされ  
思わず「ラッパニ！」と叫んだ。  
そして私たちは詩う  
この主の祭りを  
両手で迎えながら  
私たちは詩う  
喜びを 感謝を 祈りを  
ほがらかに詩う  
石清

## 祭壇奉仕者選任 新田原教会で実習

神学科2年 呉文成



祭壇奉仕者に選任しこのしるしを渡します

2月28日、高松教区神学生7名が祭壇奉仕者、朗読奉仕者として選任されました。お二人に喜ひと、これからの抱負を語っていただきました。現在、福岡キャンパスでいつくしみ深い神のお恵みの中で、司教様をはじめ、多くの方々のお祈りとご支援を受けられ、今まで、司祭職への召命の道を歩んでまいりました。新田原教会

祭壇奉仕者とは、ミサの祭壇において司祭および助祭の召命の道を全うするために、祭壇奉仕者の務めを大事にし、祈ってまいりました。果樹園に囲まれた美しい聖堂に響きわたるお祈りは、この地で培われた伝統と純朴さを私の胸に伝えてくれます。神学校からは特急を使っても片道3時間かかりますが、九州の霊性を学べる素晴らしい機会をいただいたと思っております。

## 朗読奉仕者選任 み言葉に耳傾ける大切さ

神学科1年 高山徹



朗読奉仕者としての聖書を受け取る

最後の糧の儀式や聖体賛美式を行うことができます。ただし、聖体による祝福を与えることはできません。詳しくは、「新教会法典第910条」と「聖体賛美と聖体礼拝」を参考にしてください。今後とも、神様のお招きの声を心に受けとめ、司祭職への召命の道を全うするために、祭壇奉仕者の務めを大事にし、祈ってまいりました。この1年は、役務を頂くに当たり、神学院や小教区では様々な指導を受けました。役務の規定や内容、関わる種々の神学、具体的な実践といったもので「女言葉」の奉仕職にあたります。「女言葉」を味わうこと、典礼の場でそれを朗読(朗誦)すること、そして要理

皆様の祈りとご支援お蔭をもちまして、朗読奉仕者に選任頂くことが出来ました。謹んでご報告申し上げます。当日、お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。ご報告申し上げた皆様、ありがとうございます。私自身、新たなステップを踏み出させて頂き、本当に喜んでおります。同時に、この一年で学ばせて頂いたことを振り返ってお礼申し上げます。子ども達の堅信勉強会でも感じました。こうして役務の準備の中で感じたことがあります。それは、「女言葉」を朗読する(朗誦する)私自身が耳を傾けることの大切さです。それは、子ども達の堅信勉強会でも感じました。伝えたいメッセージを念頭に置いて、毎回必死で準備している中で、まず自分自身が「女言葉」や「子ども達の声」に耳を傾けねばならないと感じたのです。この気持ちによって、自分の取り組みを猛省することになりました。「全ての出会いには恵みである」「何一つ無駄なものはない」と10年前、師から頂いたこの言葉を改めて心に刻み、これからも一歩一歩進んで参ります。これからもご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

### 徳島地区

徳島地区の教区民の集いは10月19日徳島教会で開催しました。

参加者100名程度の集いでした。司教様の宣教師「信仰共同体の養成に取組む(2)」について各小教区(徳島は5グループ)で分かち合いました。

### 各教会発表や意見交換

今回の集いの準備は徳島教会が主体的に行いました。発表内容は各グループとも現在おこなっていること、これからのようにすればよいかということが浮かび上がった。

・鳴門教会・「典礼の奉仕、集衆を促すか」

・徳島・5人のリーダーで2015年度の活動をヒツ

「社会正義への奉仕、ミナナオ子ども図書館支援への取り組み」について、「喜びをうつくる教会となるための生涯養成について」

・阿南教会・「信徒の奉仕職について」という命題での発表、その都度意見交換をし、盛況のうち終わ

されたことでしょうか。後日、教区民の集いで発表の



クアップし、共通点があればまとめる。(私たちにとって必要なものは何かを見つめていく。)

### 高知地区

11月16日(日)聖母幼稚園の講堂では定刻に始

まった。フィリピン、インドネシアそしてアフリカの

人々20人を含めて高知県の

### 外国籍信徒も歌や踊り

各教会から84人が参加した。イル神父様のあいさつ、榎原さんのプログラム説明の後、10の分散会グループに分かれての「分かち合い」が始まった。

「あなたにとって大切にしている聖書の言葉は」

「混乱とグローバル化した現代社会。今、世界は国が自分の国をコントロールするのが難しくなっている。利益や資源追求優先のグローバル企業が権勢の格差社会。こ



全参加者により記念撮影

道・光・関心・共感・歓喜・希望・広がり・自由・平和・一致・公平・大切さ・人権・仕事・賛美・驚き・真理・解放・こうしたことをともに分かち合うことで隣人となる。その傍らにある、いのち・復活・新たにされる・・・「人間の尊厳」・・・司教様の講話の後、レクリエーションが行われた。まず、中村教会の女性が福山雅治の曲に合わせてフラダンスを踊った。曲の終わりにつけていた首飾の花飾りを司教様にプレゼントした。受け取られた司教様の笑顔。

### 愛媛地区

信仰共同体を育てていくことと愛媛地区教区民の集いが10月26日(日)、松山市衣山町の愛光学園で開かれた。テーマは「私にできる信徒の奉仕職」。会場には愛媛県内から修道者、信徒ら約200人が参加、諏訪榮治司教を囲んで各教会の活動、奉仕職の実践について発表を聞き、ミサ

## 熱心に発表や分かち合い 4県で教区民の集い

が教会、キリストの体(信仰共同体)。体全体が見えない神を表す(福音宣教)。堅信によってさらに力を与えられつくりかえられる。奉仕職は様々あるが何ができるか、何をするかを考えよう」と語った。

「実践に向けて」地区宣教師牧師評議会が討議され、次のミサの福音のテーマ、実践に向けて第一歩を踏み出しました。

### 信徒の宣教活動を発表

の中で心を一つにして神の恵みに感謝を捧げた。「イエスがいちばん」をみんなで歌い開会式に続いて諏訪司教の講話があった。司教は「神の思いがこもった愛の結晶が人であり、そこに人の尊厳がある。神の改造計画・洗礼によって私たちは一旦死んで新しく生まれ、油を注がれたキリスト者になった。その集まり

目指します」と発表。アツトホームな安らぎのある教会、青年を大切にしている教会、信徒手づくり結婚式を挙げる教会、共同の絆が強まった体験、主日のミサを大切に社会に開かれた教会、外国籍信徒と共に生きる教会など各教会の実践例が発表された。

「ミサに移り、諏訪司教は説教で「司祭も信徒も生涯養成が欠かせない。多くの人の分かち合いの中で養成を受け、意識が変わっていく。居心地の良い「私の教会」でなく「キリストの教会」になりましょう。神が人を愛してくださっている。みんなの中に神がいる。



奉仕職について発表

が語られ会場から共感の声があふれた。ミサに移り、諏訪司教は説教で「司祭も信徒も生涯養成が欠かせない。多くの人の分かち合いの中で養成を受け、意識が変わっていく。居心地の良い「私の教会」でなく「キリストの教会」になりましょう。神が人を愛してくださっている。みんなの中に神がいる。

丸尾 修

### 香川地区

#### 西讃ブロック

献堂式以来の賑わいを見せたカトリック丸亀教会で、平成26年12月7日好天気にも恵まれた師走の日曜日、諏訪司教様を初め西讃地区担当の司祭、講師にスベ



講話をするアントニオ・イコス師

### 「福音の喜び」味わう 西讃

### 26聖人の映画を鑑賞 東讃

ン外国宣教師のアントニオ・イコス神父様を迎え、坂出丸亀、善通寺、観音寺、池田の各教会から多くの信徒やシスター達約80名が集いました。

「福音の喜び」を味わいながら、使徒的勧告「福音の喜び」

とても美のある教区民の集いになりました

カトリック丸亀教会 太田 修

#### 東讃ブロック

去る1月18日(日)10時から3時まで東讃ブロック教区民の集いが、司教座聖堂、四国カトリック会館に



自らの信仰について語り合う信徒たち

て開催された。100名前後の人々が参加した。テーマは「東讃ブロックの信仰再発見」。

今年2015年は、日本の信徒発見150周年にあたり、そこからこのテーマになっていったと思う。



26聖人の映画に見入る信徒

イン語圏の信者はホルヘ神父様が講話の説明をして下さり、共に御ミサに与りました。御ミサの中で諏訪司教様からその発表を基に説教があり、参加者は「福音の喜び」を味わいながら、

岩崎 武

教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes events for March and April such as '四旬節第2主日', '復活の主日', and '聖カタリナ (シエナ) おとめ教会博士 記'.

み言葉の理解さらに深まった

100週間とは言い、配分表によると旧約聖書の内、歴史書30回、預言書と教訓書46回、それと新約聖書45回の合計121回の割合となるが、途中、夏と冬の休みと復活祭頃の休みがあったり、旧・新約聖書全体の読了に約6年かかった。

〈全聖書読み終えて〉⑥

最初6回の導入の後、創世記から会合が始まったが、私は途中病入院のため、申命記の3分の2とヨシヤ記、及びマカバイ記二、ダニエル書と補遺の会合は欠席した。尚、最後の3回は添削者であった。

会合は講師の西川助祭指導の下、教会の屋の祈りと賛歌の後、当日箇所の全般的説明があり、順番に各人が当日の箇所の説明をしてから、前回の箇所についての各人の感想を述べるとい



20とマルコ7・14-23、特に19節)の教節である。

私は表面的な食物によって人は汚されないとしか理解していなかったが、この言葉によってレビ記の11章にある、肉を食べてはならず、死骸に触れてもならず、汚れたものとして動物

鈴木 裕

教区女性の会2人 大船渡を訪問

高松教区女性の会の私たちは毎年、大船渡ベール活動として以前から希望していた東北ポランディアに昨年11月14日から17日にかけて岩手県大船渡市に行ってきました。

T S C 便り

愛媛地区から4、5名の参加予定でしたが、時期と日程の都合で松山教会から2名が参加しました。松山を朝5時に出発し、JRで気仙沼迄、そこからBRT(※)で盛岡まで14時間余りでカリタス大船渡ベースに到着しました。目的地ではフットケ

足湯マッサージお手伝い 被災者との話しに胸痛む

派遣先の陸前高田市にある仮設住宅に行く途中に見た広大な稲刈り後の田畑は「流された土を入れ替えないから3年目にやっと収穫が出来た」と、スタックの方に聞き、復興の大変さを思い知りました。目的地ではフットケ



ボランティアによる草刈風景

「福音の喜び」から学ぶ

高松教区女性の視点から教会を考える委員会

第6回目を迎える今大会は、今までの内容とは少し変えさせて頂きました。前回までは、高松教区外から講師をお迎えして講演を聞き、分かち合う方法が採られていました。

「福音の喜び」は、パパ様からの大切なメッセージです。折しも教皇フランシスコ使徒的勧告「福音の喜び」が、発刊されたところで、イスマエル神父様は早速それを学習材として使うアイデアをお持ちだったのです。ご指導下さることも神父様は快諾して下さい



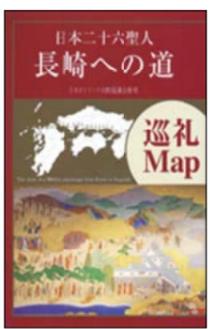
分科会の発表をしています

折しも教皇フランシスコ使徒的勧告「福音の喜び」が、発刊されたところで、イスマエル神父様は早速それを学習材として使うアイデアをお持ちだったのです。ご指導下さることも神父様は快諾して下さい

折しも教皇フランシスコ使徒的勧告「福音の喜び」が、発刊されたところで、イスマエル神父様は早速それを学習材として使うアイデアをお持ちだったのです。ご指導下さることも神父様は快諾して下さい

新刊書籍紹介

「長崎への道」ネット、『日本二十六聖人 長崎への道 巡礼マップ』



カトリック「日本二十六聖人長崎への道」ネットワーク編著 日本二十六聖人がたどった道に関わる5教区で組織した「カトリック『日本二十六聖人長崎への道』ネットワーク」は6月、巡礼マップ『日本二十六聖人長崎への道』を作成しました。2012年に二十六聖人列聖150周年を迎えたことを機に、5教区(京都、大阪、広島、福岡、長崎)がネットワークを立ち上げ、記念事業として本書の企画を進めていました。

巡礼マップは実際に歩く行程に添って編集されています。移動1日分が、地図と関連教会や史跡などで説明され、4ページにまとめられています。京都から長崎までの約900キロの道のりが示され、私たちカトリック人たちの歩みを追体験できます。「二十六聖人の生き方を広く伝えると同時に、二十六聖人の道を進む巡礼者の方々の一助となれば幸い」と「はじめに」でも呼び掛けられています。問い合わせ、注文は以下の「長崎巡礼センター」まで。

【判型】 A5版、200ページ 【価格】 1,800円+税 【お問い合わせ・注文先】 NPO法人 長崎巡礼センター 長崎市出島1-1-205出島ワーフ2階 電話: 095-893-8763 http://www.nagasaki-junrei-center.jp/

巡礼マップは実際に歩く行程に

Advertisement for '聖ドミニコ宣教修道女会' (Sisterhood of St. Dominic) with text '神を観想し、その実りを人々に伝えよ' and an image of a church interior.

Advertisement for '医療法人社団聖心会 阪本病院' (Seishin Kai Hospital) listing various medical departments and services.

Advertisement for '暁の星学園' (Akatsuki no Hoshi Gakuen) featuring '鳴門聖母幼稚園' and '高知聖母幼稚園'.